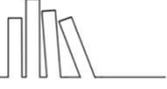


2023年10月13日（金）
国立国会図書館デジタル化資料送信サービスに係る説明会



国立国会図書館による 資料デジタル化の概況

電子情報部 電子情報企画課



 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

1

1

国立国会図書館の概要

- ◆ 国会に属する国内唯一の国立の図書館（1948年設立）
- ◆ 納本制度等に基づき資料・情報を収集し整理・保存
- ◆ 国会、行政・司法各部門、国民に対するサービスを実施
- ◆ インターネット資料（ウェブサイト、2002年～）、オンライン資料（電子書籍・電子雑誌、2013年～）等の電子資料も収集

（参考）国立国会図書館について <https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/index.html>

2

2

施設

※座席数は2021年度末時点の数値。



東京本館
(東京都千代田区)

国会向けのサービスや来館サービスを提供、3施設の統括

収蔵能力

本館書庫：450万冊
新館書庫：750万冊

閲覧スペース

18,983㎡／1,018席



関西館
(京都府相楽郡精華町)

遠隔サービスの拠点、来館サービスも提供

収蔵能力

本館書庫：600万冊
書庫棟：500万冊

閲覧スペース

4,265㎡／359席



国際子ども図書館
(東京都台東区)

児童書の専門図書館

収蔵能力

レンガ棟：40万冊
アーチ棟：65万冊

閲覧スペース

2,054㎡／124席

(参考) 建物と設備 <https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/outline/equipment.html>
国立国会図書館年報 <https://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

3

3

所蔵資料

※いずれも2021年度末時点の数値。

▶ 有体物

図書	雑誌・新聞	その他非図書資料等
約1,193万点	約1,994万点	約1,435万点

▶ 無体物

インターネット資料 (ウェブサイト)	オンライン資料 (電子書籍・電子雑誌等)
約1.4万タイトル 約22万件 (データ量約2PB)	〔民間発行〕85.7万点 〔公的機関発行〕54.6万点

(参考) 数字で見る国立国会図書館 <https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/outline/numerically.html>
国立国会図書館年報 <https://www.ndl.go.jp/jp/publication/annual/index.html>

4

4

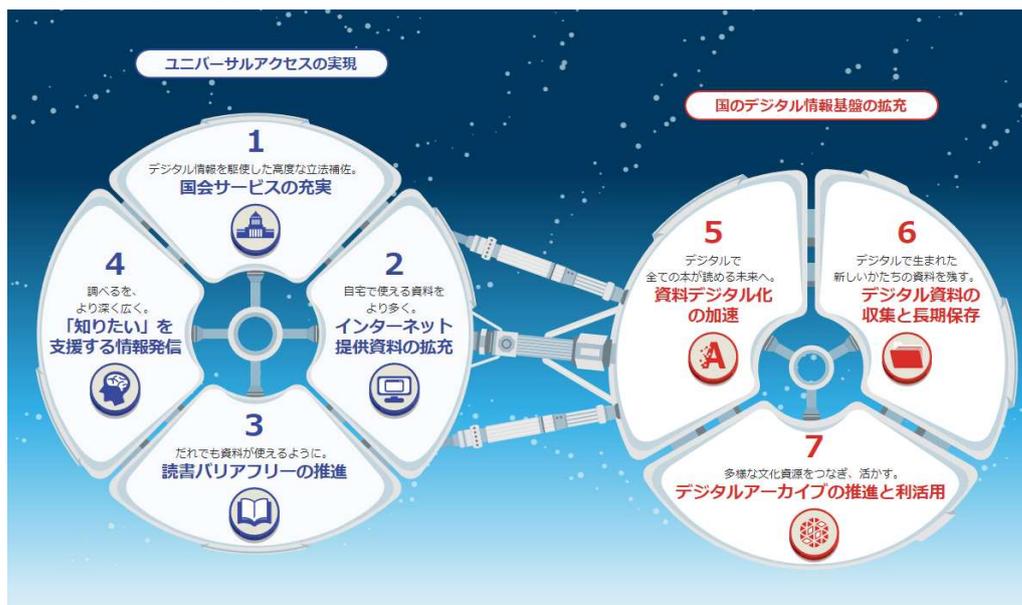
国立国会図書館のビジョン

- ◆ 2021年4月に、5年間の方針を定めた「[国立国会図書館ビジョン 2021-2025 -国立国会図書館のデジタルシフト-](#)」を策定
- ◆ 「情報技術によって私たちの社会活動やコミュニケーションのあり方が変容し、さらに新型コロナウイルスが大きな影響を及ぼす中で、社会のデジタルシフトが加速」（前文より）する状況が前提
- ◆ 2021年から2025年までの5年間で「国立国会図書館のデジタルシフト」推進期間と位置付け、「ユニバーサルアクセスの実現」「国のデジタル情報基盤の拡充」に向け、情報資源と知的活動をつなぐ7つの重点事業に取り組む
- ◆ 7つの重点事業のひとつとして「資料デジタル化の加速」を位置づけ、「デジタルで全ての国内出版物が読める未来」を目指し以下の目標を設定
 - この5年間で100万冊以上の所蔵資料をデジタル化
 - テキスト化を行い検索や機械学習に活かせる基盤データとする

5

5

国立国会図書館ビジョン2021-2025



<https://vision2021.ndl.go.jp/>

6

6

資料デジタル化の概要

- ◆ 国立国会図書館は、資料原本の保存とサービスの向上を目指し、2000年度から所蔵資料のデジタル化を推進
- ◆ 「[国立国会図書館ビジョン2021-2025](#)」でも、資料デジタル化を重点事業の一つとして位置付け、取組を加速
- ◆ デジタル化した資料は「[国立国会図書館デジタルコレクション](#)」を通じて、各資料の権利状況に応じた範囲で館内・館外に提供

7

7

資料デジタル化の目的

◆資料保存対策

資料は利用すればするほど、劣化や損傷が進行するため、デジタル化することにより、代替物を作成・提供し、原資料の利用による劣化・損傷を防止し、資料保存と利用との両立を図る。

◆電子図書館サービスの拡充

資料デジタル化を進め、閲覧や検索の利便性を高めるとともに、著作権や商用出版とのバランスに配慮しながら、障害者を含むあらゆる人々の資料の利用可能性の向上を図る。

8

8

資料デジタル化の経緯

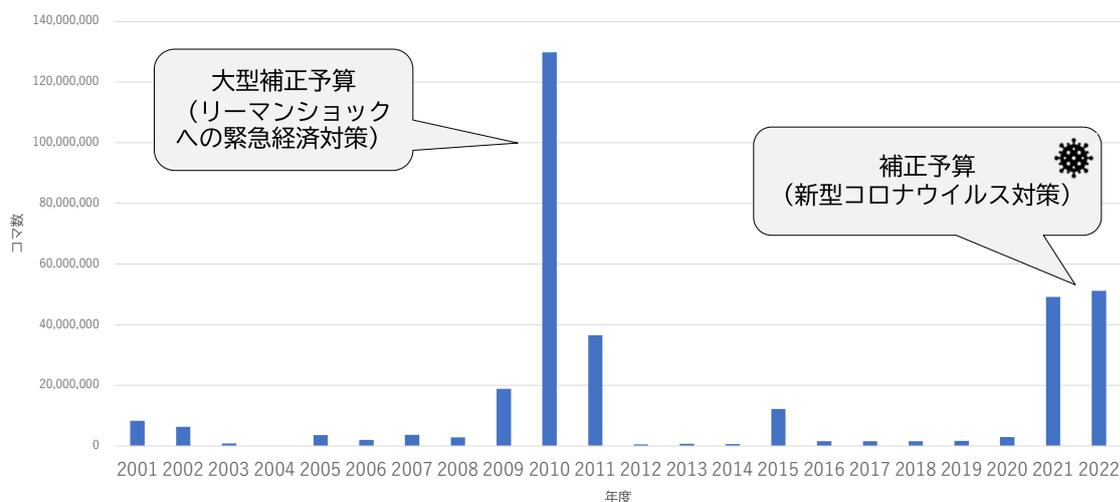
2000年	<ul style="list-style-type: none"> 資料デジタル化を開始。著作権処理を行いインターネットで公開（2~4万冊/年）
2009年	<ul style="list-style-type: none"> 著作権法改正（国立国会図書館で保存目的のデジタル化が可能に）
2009~2011年	<ul style="list-style-type: none"> 大規模デジタル化事業実施（2009年度、2010年度補正予算）（図書66万点・雑誌22万点等）
2012年	<ul style="list-style-type: none"> 著作権法改正（図書館等への絶版等入手困難な資料の送信が可能に）
2014年	<ul style="list-style-type: none"> 図書館向けデジタル化資料送信サービス（図書館送信）開始
2015年	<ul style="list-style-type: none"> 災害関係資料のデジタル化（2014年度補正予算）（図書6万点・雑誌2万点等）
2018年	<ul style="list-style-type: none"> 著作権法改正（外国の図書館等へも絶版等入手困難な資料の送信が可能に）
2019年	<ul style="list-style-type: none"> 外国の図書館等にも図書館向けデジタル化資料送信サービスを拡大 デジタル化内製プロジェクト開始
2021年	<ul style="list-style-type: none"> 国内刊行図書のデジタル化（2020年度補正予算）（図書30万点、全文テキスト化・OCRプログラムの開発等） 「資料デジタル化基本計画2021-2025」の策定 著作権法改正（絶版等資料の個人への送信が可能に）
2022年	<ul style="list-style-type: none"> 国内刊行図書のデジタル化（2021年度補正予算）（図書30万点、視覚障害者向けOCRプログラムの開発等） 個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）開始（印刷のみ2023年1月開始）
2023年	<ul style="list-style-type: none"> 国内刊行図書のデジタル化（2022年度補正予算）（図書40万点、図書付録のデジタルデータ抽出1.5万点等）

9

9

資料デジタル化の実績

デジタル化したコマ数の推移



10

10

資料デジタル化基本計画2021-2025

評価要素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 唯一性・希少性 ・ 資料の利用機会の拡大（インターネット公開や個人/図書館送信が見込まれるか） ・ 資料の劣化状況、保存の緊急性 ・ デジタル化への社会的・学術的ニーズ ・ 国や世界の体系的なデジタルコレクション構築への貢献
対象資料	<p>日本で刊行された資料（外国刊行の日本語資料・日本関係資料も含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書（2000年までに刊行されたもの）※官庁出版物はそれ以降も含む ・ 雑誌（刊行後5年以上経過したもの） ・ 古典籍資料 ・ 録音・映像資料 ・ 博士論文 ・ 他（憲政資料、日本占領関係資料、日系移民関係資料、地図、新聞<試行>）
利用提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「国立国会図書館デジタルコレクション」で提供 ・ 本文テキストデータの作成を推進し、全文検索を可能に ・ デジタル化済み原資料は原則として利用停止 ・ 公開範囲：館内限定・図書館/個人送信・インターネット公開

https://www.ndl.go.jp/preservation/digitization/digitization_plan2021.pdf

11

11

資料デジタル化の現状と今後

資料	2022年度までの取組	インターネット公開	図書館/個人送信	館内限定	合計	2023年度以降の取組予定
図書	明治期以降、1987年までに受け入れた図書 震災・災害関係資料の一部（1987年以降に受け入れたものを含む。）	36万点	85万点	39万点	160万点	【2023年度】1995年までに刊行・受入した図書40万点 ※官庁出版物など1995年以降刊行・受入のもの一部含む
雑誌	国内刊行雑誌のうち、劣化した雑誌や学術雑誌等（刊行後5年以上経過したもの）	2万点	82万点	53万点	136万点	継続（学協会等からデジタル化要望があるものを優先）
博士論文	1988～2000年度に送付を受けた論文	1万点	14万点	2万点	17万点	1987年度までに送付を受けたもの
新聞	明治期以降に刊行された新聞のうち、資料保存のために試行的にデジタル化したもの	-	-	8万点	8万点	継続（試行は日本新聞協会と合意の下で行う）
その他	古典籍、地図、官報、録音・映像資料、憲政資料、日本占領関係資料等	20万点	4万点	11万点	35万点	継続（官報を除く）
	※2023年8月時点の提供点数	60万点	184万点	112万点	356万点	

<https://www.ndl.go.jp/preservation/digitization/index.html#overview>

12

12

国立国会図書館デジタルコレクション



トップページURL : <http://dl.ndl.go.jp/>



閲覧画面

- 所蔵資料のデジタル化画像、収集した電子書籍・電子雑誌等を提供するシステム。
- 2022年12月に全面リニューアル。（スマホ対応等）
- 書名・著者名などの書誌情報による検索の他、全文テキスト検索の対象資料を大幅に拡大。
- 各資料の権利状況に応じた範囲で閲覧提供。

資料の権利状況	提供範囲
著作権保護期間満了や権利処理済み	インターネット公開
絶版等入手困難資料	図書館/個人送信
その他	館内限定公開

13

13

全文テキストデータの活用

- 2020年12月時点でデジタルコレクションに登録されていたデジタル化資料約247万点（古典籍資料、録音・映像関係資料、日本占領関係資料等は除く。）について、OCR（光学式文字認識）により全文テキストデータを作成。（※2020年12月以降登録の資料は今後、順次実施する予定）
- 2022年12月から、上記資料の全文テキスト検索をデジタルコレクションで提供開始。
- 検索結果のスニペットは提供範囲に関わらず表示。（辞典・短歌・俳句などは除外）
- 別途の除外手続を経たものについては視覚障害者等向け限定で全文テキストデータを提供。

【247万点の内訳】

種別	内容	点数（概数）
図書	・1968年までに受け入れた図書 ・震災・災害関係資料の一部（1969年以降受入分も含む）	97万点
雑誌	・劣化した雑誌や学術雑誌等（刊行後5年以上経過したもの）	132万点
博士論文	・1988年（一部）～2000年に送付を受けた論文	15万点
その他	・官報等	2万点
	計	247万点

※他に、電子書籍・電子雑誌等のポーンデジタル資料で、本文テキストデータを含む資料も全文テキスト検索の対象。

14

14